

【助成事業：郡山市中央商店街ウインターフェスティバル2013/2014】

ポイント

ユニバーサルデザインの街区を「子ども夢駅伝」の児童達が快走

福島県郡山市の中心部を構成する商店街。生き残りをかけた街並み整備が完成し、ユニバーサルデザインの高質な街区に高級ブランドを取り扱う店舗などが軒を並べる。後継者や空き店舗等の課題を抱えつつも、地域住民等との連携による「子ども夢駅伝」やマルシェ等の多彩なイベントを積極的に開催。5月の風の中、街を駆け抜ける子供達に熱い声援が送られ、地域の人々とのふれあいと交流を促進している。

商店街情報

所在地：福島県郡山市中町15番32号
 地域の人口：333,108人 140,913世帯
 （郡山市 平成30年3月末日現在）
 商店街の種類：広域型商店街
 組合員数：48名
 店舗数：100店舗（主な業種構成：飲・食料品、紳士・婦人服、呉服、美容、ホテルなど）
 電話：024-922-2838 FAX：024-938-1514
 URL：<http://www.yume-dori.jp/>



商店街の風景

商店街の概要と近年の環境変化

福島県のほぼ中央に位置し、古くは奥州街道の宿場町として栄えた郡山市。人口は33万9千人を数え、東北地方では仙台市に次ぐ規模を誇る。新幹線など鉄道と高速道路網の結節点であることから広域の商圈を有するが、東日本大震災の被害は未だ癒えておらず、産業振興を含めて地域全体の活性化が課題となっている。

「なかもち夢通り」の愛称を持つ郡山市中央商店街は、JR郡山駅から西に約200m、徒歩4分ほどに位置し、隣接する駅前大通りなどとともな郡山市の中心市街地を形成している。当初、地元資本のデパートを核として商店街が形成されて地域生活の拠点となり、折からの高度成長と相俟って繁栄の時期を迎えた。しかし、車社会の本格化とともに郊外型の大型商業施設が相次いで進出、こうした影響でそれまで中心部の核となっていたデパートやスーパーが撤退。さらに集客力のある病院の郊外移転等も重なって中心部の空洞化が加速した。そこで組合では、街の生き残りをかけて平成11年から約400mの街区の再開発に着手。ユニバーサルデザインに基づく電線の地中化、斬新なデザインの街路灯や山水道のモニュメント、休憩用のベンチ等の設置、御影石を使用した歩道の高質化等を実施し、平成16年に完成。街の愛称も「なかもち夢通り」としてイメージの一新を図った。

現在商店街の組合員数は48名、高級ブランドを擁した地元の老舗デパートを中心に美容室や飲食店、衣料関連、シティホテル等で構成され、郊外型店舗にはないブランド品を取り扱っていることなどから主婦を中心に比較的富裕層が市内外から訪れている。また運営面では、理事会のもとに組織された6つの委員会と青年部が中心となり毎月のようにイベントを打つなど積極的な活動を展開している。



なかもち立体駐車場



街路灯



ベンチ



山水道のモニュメント

助成事業の概要とその成果

当商店街の集客・活性化に向けたイベント活動は、主に青年部員からなる「地区活性化委員会」のメンバーが企画・運営の中心となって展開してきたが、中心街区での利用者減少は依然として大きな課題で、歩行者天国など街区の空間を活用しつつ地域コミュニティとの連携を強化していくことを検討していた。こうした中で助成事業の存在を知り、従来の事業に新機軸を加えるなどパワーアップさせたイベントを企画した。

<平成25年度事業：郡山市中央商店街ウインターフェスティバル2013>

恒例となっている初冬の一大イベント「ウインターフェスティバル2013」の実施を中心に、情報発信を強化して以下の事業を実施し、多くの集客を実現した。

①なかまち秋フェス

当商店街の中核イベント「ウインターフェスティバル」のプレイベントとして10月に秋のフェスを開催。アイドルのライブステージで集客を図ったほか、食の秋に因んだ「郡山グリーンカレー」等のご当地グルメ等で街の魅力を発信した。

②ウインターフェスティバル

冬を控えた11月、街区全体を歩行者天国にして地元FM局による公開放送でのライブステージ、音楽教室の生徒によるコンサート等の集客イベントを中心に、地元のグルメを提供。さらに、街区でのビンゴ大会や科学館と提携した工作体験、自衛隊車両の搭乗体験等子供たちが楽しめる内容をふんだんに盛り込み、幅広い世代の方々に憩いの場を提供した。

③ウインターイルミネーション

11月から翌年1月の3か月間、クリスマスイベントや新年行事を盛り上げるため、22基の街路灯におしゃれな女性をイメージしたイルミネーションを設置し、夜間の集客促進と商店街のイメージ向上を図った。また期間中は、甘酒の振る舞い等で販促サービスの充実を図った。



平成25年10月「なかまち秋フェス」
上 アイドルのステージライブ
下 こおりまちグリーンカレーのブース

<平成26年度事業：郡山市中央商店街ウインターフェスティバル2014>

平成26年度においても「ウインターフェスティバル2014」を中心に事業を実施したが、冬にとどまらず夏の時期からイベントの展開を行い、長期間の集客を図った。

①夏のまちなかライブ・ビール祭り

8月に、空き店舗を利用した地元FM局による生放送とジャズやラテン音楽のライブイベントを開催。これに合わせて地元の農産物の販売や軽食と生ビールの祭りを開催した。また、商店街の飲食マップを作成・配布し、イベント後の店舗への回遊も図った。

②なかまち秋フェス

9月に食に因んだイベントとして「秋フェス」を開催。地元の食材の販売や『こおりやまグリーンカレー』のブースを設け、1万人を超える来街者で賑わった。また、スタンプラリーを併せて開催、地元の野菜や新米等を景品とするなど地域全体での取り組みとした。

③ウインターフェスティバル

当商店街の中核イベントであり、26年度も11月の第一日曜日に、地元FM局の公開録音とライブステージ、ビンゴゲームやふれあい科学館の体験コーナー、クラシックカーの展示のほか地元福島観光地のPR等を行い、25,000人を超える集客を実現した。また11月からは街路灯にイルミネーションを設置し街のイメージアップを図った。



平成26年8月「夏のまちなかライブ・ビール祭り」
上 音楽ライブ
下 FMラジオ生放送

<助成事業による成果等>

当商店街の中核イベントである「ウインターフェスティバル」はプレイベント等による告知効果もあり、中心市街地の目玉イベントとして過去最大規模の集客を実現した。地元FM局の協力と「食」や「観光」等の情報発信に加え、子供たちの体験型イベントも効果を高める要素であったが、女性を含む青年部が中心となって構成する「地区活性化委員会」の企画力に負うところが大きく、商店街の認知度が飛躍的に向上した。

助成事業以降の商店街活動

当商店街では、助成事業実施後も「なままち夢通り委員会」「商売繁盛委員会」等六つの委員会と青年部組織が中心となって「ウインターフェスティバル」を継続して実施するほか、地域団体との連携・協力による各種のイベントをほぼ毎月のように開催している。とりわけ「まちなか子ども夢駅伝競走大会」は地域の一大イベントとして定着している。

①まちなか子ども夢駅伝競走大会

毎年5月に、商店街のメイン通りに1周約450mのコースを設け、幼稚園から小学校の高学年までの児童が参加する駅伝大会を開催。平成30年で12回目を迎える地域の恒例行事となっている。行政や教育委員会、体育協会等の団体、新聞社のほか地元にある大手企業陸上部や自衛隊などの協力のもと、スポーツ少年団や小学校から150チームが参加し、沿道には応援する家族が詰めかけ、白熱した雰囲気包まれた1日となっている。商店街の事業に子供達が参加してくれることで大勢の家族が訪れ、街の魅力を知ってもらうとともに地域の交流を深める絶好の機会となっている。



まちなか子ども夢駅伝

②街区の清掃活動

「なままち夢通り委員会」が中心となり、街区的美観維持のため毎月21日の朝7時30分から1時間をかけて街区の一斉清掃を実施。ガムの除去や花壇の雑草を取り、街への愛着を深めながら組織内部の結束力強化にも一役買っている。

③郡山べっぴん等

販売力の向上を担う「商売繁盛委員会」が中心となり、中心商店街を構成する近隣2商店街と共同で「一店逸品事業」を開催。「郡山のベストな逸品」を略して「郡山べっぴん」と称し、季節ごとの逸品フェアを行うなど魅力ある店作りと販売に力を入れている。また3カ月に1回、市民参加による「郡山べっぴんお店巡りツアー」を開催。商店主自身がガイド役を務め、街と店の魅力をPRしている。



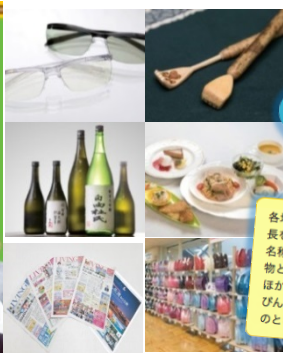
表参道マルシェ

④共催イベントの実施

地域団体等と連携・共催する多彩なイベントを、商店街のメインストリートを舞台として数多く開催している。6月からは福島県の農産物の情報発信をする「食大学」と連携して「表参道マルシェ」を年3回開催、8月からは農業支援のNPO法人との連携による「あぐり市」を年6回開催、7月は「郡山わくわくフェスタ」、8月の「花市」「郡山うねめまつり」など目白押しのイベントを展開。夢通りは地域コミュニティのシンボルロードとして人々の生活に大きな役割を果たしている。



郡山べっぴん



郡山べっぴんのコンセプト

各地で行われている逸品運動と区別し特長を出すために「郡山べっぴん」という名称でブランド化しました。「普通の品物と違う」「特別によい品物」の意味のほかに、女性の身姿をさす「別嬪（べっぴん）」にちなんで、美しくキレイなものであるという思いも込められています。



一店逸品フェア&ツアー

一店逸品事業は季節毎・年四回の（一店逸品フェア（売出し））と市民から募集した参加者による（一店逸品ツアー（巡り））を年数回実施します。

自治体による活性化支援等

郡山市

郡山市は、東京からは新幹線で1時間半、福島県の東西を結ぶ交通の要衝にある。減少傾向にはあるものの33万9千人の人口を有し、県内随一の商品販売額を誇る広域型商圈都市である。平成28年に市が実施した買物動向調査では、郡山市の商圈人口は516万人で地元購買客が358万人に対し他地域からの吸引人口は158万人となっているが、交通網の整備に伴い都市間・地域間競争が激しさを増している。

市内の商店街とその構成員については、15年前には29あった商店街が現在は24に、商店数についても1,029が635にまで減少している。こうした状況の最大の原因は、郊外型店等への購買力の流出と店主の高齢に伴う後継者不足があるとみている。しかし、地域社会における商店街の重要性等に鑑み、市では平成29年に「郡山市中小企業及び小規模企業振興基本条例」を定め、活性化に積極的に取り組む商店街に対して以下のような支援を行っている。

①商店街並み整備事業補助金＝街路灯のLED化や防犯カメラの設置等に対して経費の30%を助成し商店街の環境整備を促進
②商店街等賑わいづくり等補助金＝商店街等が実施するイベント事業に対して50万円を上限として助成
③商店街きらめき21研究会事業＝地域の若手商業者が自由な発想で展開する地域活性化事業や研究会活動の事業費の一部を助成

上記のほか、商店街の空き店舗対策、街路灯の電気料の助成、商店街等の情報発信事業への助成等を実施し中心市街地の活性化を支援している。



取材を通じて明らかになったこと

商店街の魅力は、安全・安心が確保され、四季折々の変化が楽しめるなど歩いて楽しい街区が整備されているとともに、その地域にあった店舗が並んでいることにある。また、これらの物的な整備に加えて“楽しさ”を提供してくれるイベント等の活動も不可欠である。このためには力を合わせ、価値観を共有した組合活動が不可欠だが、当商店街では、理事長以下役員の見据えた指導と各委員会及び青年部等の積極的な活動、さらには事務能力の高い事務局によってこれらが実現されている。東日本大震災の影響や商業環境が変化する中で、先人から受け継ぐフロンティアスピリットを発揮して様々な苦難を乗り越えてきた。こうした精神は「商店街を愛し…美しい街をつくります」という街づくり憲章に集約されており、今後も商いと地域づくりに取り組み、新たな価値を創造していくことが期待されている。

商店街の今後の戦略

人を育む夢通り

商店街の高質化を実現し、現在は美化活動などを通じてこれの維持を図っている。また、助成事業によるイベントの継続や花いっぱい運動などで来街者に喜んでもらえる街づくりを進めている。イベント事業は大事だが、個々の店舗の繁栄に結びつくことが重要で、それが商店街全体の繁栄につながるものと考えている。このため、「商売繁盛委員会」で一店逸品運動や情報発信などの事業を強化していくほか、売り場の改善や販売促進などに結び付けていきたい。街の景観や文化を守っていくため、「まちづくり憲章」を制定して組合員で共有しているように、組合員それぞれの可能性を尊重しつつ、コンセンサスを取って積極的な活動を展開していきたい。

さらに、“街づくりは人づくり”と言われるように、次世代を担う若手の育成は不可欠。地域連携などを通じて若手がチャレンジできる土壌づくりを進めるなどして街の個性に磨きをかけ、幅広い年代の人々にとって夢あふれる街として、商店街の新たな利用価値を創造していきたい。



～ 仕掛け人 ～

郡山市中央商店街振興組合

左 理事長 齋藤淳宏
右 事務局 今泉善美